

資源循環の推進

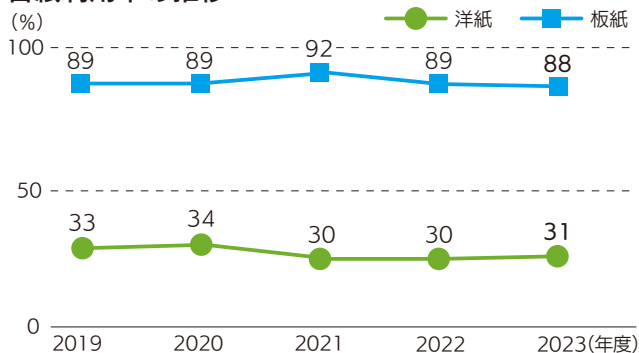
1 基本的な方針

📖 →P87 日本製紙グループ環境憲章

2 古紙利用の取り組み

当社グループは、古紙を重要な原材料と位置付け、未利用古紙のリサイクルに取り組んでいます。

古紙利用率の推移(国内※)



※ 2021年度からクレンシア春日も対象範囲に含んでいます

事例

食品・飲料用紙容器の再資源化設備稼働(日本製紙)

当社富士工場では2022年10月、食品・飲料用紙容器類の古紙からリサイクルパルプを製造する専用設備を稼働させ、精度高く分別された食品・飲料用紙容器類由来の古紙を原料に利用することによる高品質・高白色度のリサイクルパルプ製造が可能となりました。本設備で生産されるリサイクルパルプの特徴を活かし、付加価値の高いさまざまな紙製品への再生利用を進めることで、使用済み紙容器リサイクルの普及に努め、新たな資源循環ビジネスの構築を進めます。

浜松市民と協力した紙容器自主回収リサイクル事業が環境大臣賞を受賞(日本製紙)

当社は2021年4月より、浜松市の後援を得て、ヨーグルトカップ・紙コップ等の食品・飲料用紙容器リサイクルを実施しています。これは、浜松グリーンウェブ株式会社(2024年2月よりJFE環境テクノロジー株式会社に交代)および特定非営利活動法人エコライフはままつとともに、浜松市の環境啓発施設「えこはま」等に回収ボックスを設置して使用済み紙容器を収集し、当社の工場で製紙原料として使用する再資源化事業です。これにより、一般消費者のリサイクル意識向上、焼却ごみの減量、木質資源の長期循環利用による炭素固定に貢献します。この取り組みが評価され、「令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」(主催:リデュース・リユース・リサイクル推進協議会)にて環境大臣賞→P25を受賞しました。

日本航空、東罐興業との三社協働による紙コップリサイクル(日本製紙)

当社は2022年12月より、日本航空株式会社(以下:JAL)と紙コップ等のリサイクルにおける協働を継続しています。JALグループが一部国内線の機内サービスで使用した紙コップ等を適切に分別・回収し、当社グループが輸送・集積・梱包を行う独自のルートを構築しています。当初は段ボール原紙等へのリサイクルに限定していましたが、さらなる取り組みとして、紙コップメーカーである東罐興業株式会社との三社協働により、2024年6月に「紙コップから紙コップへ^{※1}」の水平リサイクルを国内で初めて^{※2}実現しました。

※1 原料の一部に使用済み紙コップ等を含む再生紙を使用

※2 当社調べ

“choito®”を軸とした、使用済み紙容器のアップサイクルプロジェクト(日本紙通商、日本製紙)

当社グループは、2024年2月、使用済みの食品・飲料用紙容器を原料の一部に使用した紙糸からつくる布製品ブランド“choito®”を立ち上げました。回収された使用済み紙容器を当社富士工場にて高品質なリサイクルパルプに再生し、そのパルプを用いた紙糸を使い、最終的にはタオルやエプロン等の布製品を提供する取り組みです。本プロジェクトを通じて多くの事業者との協働を促進し、これまで廃棄されがちだった使用済み紙容器類のリサイクル拡大に貢献していきます。

資源循環の推進

事例

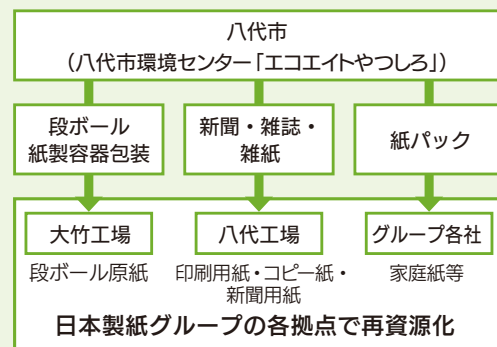
剥離紙リサイクルへの取り組み(日本製紙)

当社ではシール・ラベルの台紙に使われる剥離紙用原紙の製造を行っており、従来廃棄されている剥離紙を拡大生産者責任の観点から再資源化する取り組みを進めています。現在は、使用済み剥離紙を収集し、段ボール原紙やノートの表紙等へリサイクルしています。また、J-ECOL（一般社団法人ラベル循環協会[※]）の活動へも参加しており、剥離紙リサイクルの普及に協力しています。さらに、剥離紙をよりリサイクルし易くするためにPEラミネート層を必要としない剥離紙用原紙（片面コート紙）の提案を行うことで、プラスチック削減にも貢献しています。

※ 使用済み剥離紙における資源循環の普及促進を目的として2023年5月に設立。
シール・ラベルの使用や製造、リサイクルに関連する企業・団体が参加

自治体との協働による古紙の循環利用(日本製紙)

当社八代工場では、八代市と連携し、八代市内で発生する古紙をリサイクルするシステムを構築しました。八代市が回収した多様な古紙（新聞・雑誌・雑紙・段ボール、紙パック、紙製容器包装）を、八代工場をはじめとする当社グループの工場が受け入れ、古紙パルプ製造設備等の設備や技術を活かして再資源化し、紙をつくる原料として使用します。



「クローズド・ループ」の取り組み(日本製紙)

回収された新聞古紙やカタログ用紙を長期的かつ安定的に原料として資源循環させるため、当社は、お客さまが回収した古紙を直接買い受ける「クローズド・ループ」というスキームを構築しています。2023年4月には、新たに株式会社DINOS CORPORATIONと、カタログ古紙の「クローズド・ループ」の構築による資源の国内循環を目的として、古紙の売買および循環に関する契約を締結し、運用を開始しました。

紙コップ回収リサイクル(日本製紙)

当社は、2019年より本社オフィス内で使用された紙コップを回収し、当社足利工場において段ボール原紙の原料としてリサイクルする取り組みを行っています。2023年度は、17万個の紙コップを回収しました。

紙パックリサイクル『PakUpcycle[®]』(日本製紙)

当社は、「Pak」（飲料用紙パック）と「Upcycle」（不用品を、商品としての価値を高める加工を行い再利用すること）を合わせた造語『PakUpcycle[®]』（パックアップサイクル）というキャッチフレーズのもと、さまざまな取り組みを行っています。

〈紙パック回収リサイクル〉

グループ各社の拠点に紙パック回収ボックスを設置し、従業員に対し、紙パックリサイクルの意識啓発に取り組んでいます。また、紙パックの回収を、社会全体で資源を有効活用するための活動と位置付け、回収事業者と連携し、各種施設・学校などへリサイクルの働きかけを強化しています。2017年から、練馬区を中心に当社独自の方式により回収（2023年度実績：3.8トン）しており、家庭紙の原料として使用しています。

〈飲料用アルミ付紙パックのリサイクル〉

飲料用アルミ付紙パックのリサイクル工程で廃棄物処理されている、ポリエチレンとアルミニウムの混合物（以下ポリアル）をマテリアルリサイクル[※]するため、株式会社リプロや萩原工業株式会社と協働し、ポリアルの用途開発に取り組んでいます。ポリアルを原料に使用した境界杭が、複数の森林組合で採用されています。

※ 廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法

〈学校給食牛乳用紙パックのリサイクル〉

2023年に豊橋市周辺地域に学校給食用の牛乳（学乳）を供給する中央製乳株式会社で、School POP[®] → P55 が採用されました。これを受け豊橋市では、ごみの減量化、資源の循環利用を目的とした学乳用紙パックのリサイクルを開始するとともに、学校における環境教育を推進するために出前授業などを実施しています。当社社員もこの出前授業に参加し、講義や紙すき体験などのお手伝いを行いました。